

IV 自動車駐車場の景観誘導基準

A 植栽

- ①駐車スペースが周囲から見て目立たないよう、生垣や植栽、緑化フェンス等を用いて接道部を緑化する。
 - ・植栽のほか、ルーバーによる目隠し、緑化ブロックによる舗装等の工夫も検討しましょう。
 - ・立体駐車場を設置する場合は、敷地境界線付近への設置は避け、街並みと調和する材料や色彩を用いた外装にしましょう。
- ②敷地内に残る樹木はできる限り残し、それを活かした植栽計画とする。
 - ・樹木が大木になるには50年、100年もの年月を要します。そして成長した樹木は地域の風景を構成する重要な要素となり、地域の歴史を語り継ぐ役割も担います。
 - ・既存樹木の位置が計画に影響する場合は、移植も検討しましょう。やむを得ず移植する場合でも、緑の一体感や通りからの見え方などに配慮した配置としましょう。



敷地内にある樹木を残したコインパーキングの例

B 照明・夜間景観

- ①屋外照明は、暖かみを感じる色温度の低いものを基本とし、周辺の住宅地に配慮した落ち着きや安心感のあるものとする。
 - ・色温度の低い（暖かみを感じる電球色などの）照明により、落ち着きのある夜間景観を演出しましょう。
 - ・防犯に配慮するとともに、夜道を歩く人が不安を感じないように、明るさを確保しましょう。
- ②屋外照明は、まぶしさや点滅などによる不快感を与えないものとする。
 - ・光量や光源の向きなどに配慮し、主に直接光源が見えない間接照明を用いて植栽や壁などを照らしましょう。

C 屋外広告物

- ①周辺環境との調和に配慮し、最小限かつ街並みに適した数・大きさとする。
- ②文字数や色数は極力少なくし、周辺の建築物等と調和した色彩とする。
- ③照明は、夜間景観に配慮した落ち着きのあるものとし、点滅するものや光源が露出する装置類は使用を控える。